

節分と 食物アレルギー



今年も早いもので2月になり、もう暦の上では春です。とはいえ、まだまだ寒い日が続いておりませんが、まちアポの読者の皆様はお元気で過ごすごでしょうか？

2月の節分の日に行う行事として「豆まき」があります。節分は本来、季節を分けることを意味し、立春、立夏、立秋、立冬の前の日をさしています。現在は、立春の前の日をさすことが多い、その日に行われるのが「豆まき」です。「鬼は外、福は内」大きな声で豆をまくことにより、邪気を追い出し、その1年、家族が無病息災で過ごすことを願うというものです。

この豆まきに使われる豆ですが、従来は煎った大豆が使われることが多かったようですが、最近では、豆まきをしたあと拾って食べることができるとの理由から、殻付の落花生を使用されることも多くなっているようです。ちなみに私は札幌出身ですが、実家では昔から殻付の落花生をまいていました。皆様がお住まいの地方ではいかがですか？

今月は節分にちなんで、落花生などの種実類アレルギーについてお話ししたいと思います。落花生のアレルギー患者は、わが国でも多く、神奈川県で実施した調査でも種実類のなかで1位でした

た(図)。毎年、米国では50名以上の方が、落花生アレルギーによるアナフィラキシーショックで命を落としています。落花生のほかにも、アーモンド、くるみ、マカデミアナッツ、カシューナッツ、ごまなどの種実類によってもアレルギーが発症しています。また、めずらしいところでは、松の実によるアレルギーの症例が昨年秋季の学会で報告されました。幼稚園や小学校などで、豆まきを予定されている場合は、落花生や大豆などにアレルギーをもつ児童がいなくどうか、十分に確認してから実施するようにしてください。

(人) 平成16年度神奈川県食物アレルギー実態調査結果より n=3588



種実類のアレルギー

板垣 康治

神奈川県衛生研究所
アレルギー研究プロジェクト
総括リーダー／医学博士